

EX 2872

Def Doc # 1401-C-1

辯護側書證第一四〇一〇一號

野村發松岡宛 一九四一年五月八日 第二七七七號

往電第二七三號追捕旁々左ノ通り

一、近時殊ニ國防法案通過後ニ於ケル米國ノ政治經濟ノ實權ハ殆ト「ルーズ  
ヴェルト」ノ掌中ニ歸シ其ノ獨裁的傾向益々顯著ナルモ「ワリ華府ニハ凡  
ユル政客經濟人蟬集シ其ノ盛況ハ嘗テ見サル處ナリ又一万新聞通信機關ノ  
重ナルモノハ「ルーズヴェルト」ノ操縦スル所トナリ所謂輿論ナルモノハ  
實質上大統領カ巧ニ作り居ル所「テ例ヘハ米國第一主義ヲ奉スル政客又ハ  
評論家等ノ言論ニ依リテ「ルーズヴェルト」ヲ作ル所ノ輿論ヲ軟化シ若ハ  
變更セシムルコトハ不可能ナル狀況ナリ、從テ「ルーズヴェルト」ノ政策ヲ  
批判シ又ハ之ニ反スル言動ヲ爲スモノハ利敵行爲乃至ハ「スパイ」トシテ  
禁リ去ラルル空氣ニシテ言論ノ自由モ急速ニ失ハレツツアルヤノ觀アリ而  
シテ嘗テ「ルーズヴェルト」ノ「フレイント」稱セラレタル人々ハ漸次離  
反シ最近ニ於テハ僅カニ「ホブキンズ」ノ「ウオーカ」(二十年來「ルーズ  
ヴェルト」ヲ後援シ第三期出馬ノ際選舉事務長官)及「ハル」ノ如キ側近

者ノ助言與ツテ力アルモ重要國事ハ主トシテ大統領ニ依リ決定セラレ居ルモノ、如シ本官カ議ニ上申セル日米國交調整案ハ大統領直裁事項トシテ大統領及前記三名ノ外海軍長官之ニ加ハリ協議セラレタルコト確實ニシテ「スチムソン」ヲ始トシ他ノ閣僚及國務省官吏ハ全部除外セラタルモノノ如ク「ハル」ハ國務次官等ニ對シ日米問題ハ政府最高首腦部ニテ決定セラレヘキ旨申渡シタル趣ナリ

尙序手乍ラ當大使館ニテモ相當利用價值ヲ認メオリ且貴大臣ニ於テモ御懇意ノ間柄ニ在ル「ロイ・ハワード」ノ如キハ過譽ノ選舉及最近國防法案討論ニ際シ「ルーズヴェルト」反對ノ立場ニ在リシコトモ手傳ヒ目下大統領トハ疎隔シ居ル有様ナリ

二、米國人ノ大部就中大統領等カ抱ク世界觀即今次大戰ヲ「トイタリテリアン」ト「デモクラシー」トノ争ト見ル點「トイタリテリアン」カ個人ノ自由ヲ無視スルハ人道ノ敵ナリトスル點、侵略ニ依ル領土變更ヲ許容セサル點侵略行爲ハ假令一時的的成功スルモ必ス「シーザー」「ナポレオン」ノ如キ例ニ見ル如ク最後ニハ必ス失敗ニ歸スヘシト見ル點「デモクラシー」ノ

牙城タル英國ヲ飽ク迄救援セントスル點、英獨戰ハ米獨戰ニ轉化セラルル可能性アル點等ニ付テハ今日ハ勿論今後ト雖モ何人ノ努力ヲ以テスルモ之ヲ變更セシムルコト不可能ナルヘク之ニ好意的忠言ヲ提言スルモノハ反ツテ敵ノ片割ナリトシテ疎ンセラルル有様ナリ而シテ今次歐洲大戰ノ歸趨ニ付テハ戰爭長期化スヘク此ノ間米國カ大規模ニ對英援助ヲ爲スニ於テハ獨逸側（占領國ヲ含ム）ハ結局必ス崩壞ニ至ルハシトノ希望の見解ヲ抱クモノ多ク中ニ「リンドバーク」等ノ如キ日本人ヨリ見テ妥當ノ意見ヲ抱懷スルモノアルモノアルモ支持者ハ國民ノ少數ナリト認メラル

從ツテ米國トシテハ英國ガ獨逸ノ爲徹底的敗北ヲ喫シタル後ハイサ知ラス今日ノ情勢ニ於テ英獨和平調停ニ「イニシヤチーヴ」ヲ執ルカ如キコトハ萬ナカルヘク一意國防計畫ノ遂行ニ努メ以テ對英援助物資ノ増大ヲ計ルト共ニ自國ノ劃期的大軍備ヲ一日モ早ク完成センコトヲ期シツツ他方既ニ實施シ居ル「パトリール」ヲ更ニ強化シ近ク「コンボイ」ヲ實施スヘク而シテ「コンボイ」ヲ行フトキハ戰爭ヲ覺悟シテ之ヲ行フモノナルヲ以テ勢ノ赴ク所大戰加入ニ至ル危險性大ナルモノアリ殊ニ最近「バルカン」及近東

ニ於テ英側ノ蒙リタル不利ナル戦線範圍ニ協力スル爲參戰論據ニ擡頭シツ  
 ツアル點ハ最モ警戒ヲ要スル點ナリト思考ススル微妙ナル情勢ニ直面シ居  
 ル米國トシテ日獨兩國ヲ同時ニ敵性國トシテ待ツコトハ不利ナルカ故ニ米  
 國側ニトリテ危險度ヨリ少キ日本ト國交ヲ調整セントスルコト一應領キ得  
 ル所ニシテ所謂了解案ニ沿ツテ交渉ヲ開カントスルコトモ亦這般ノ消息ヲ  
 裏書スルモノト信セラル、然レ共之ヲ以テ米國我ニ組セリト見ルハ當ラス  
 私カニ承知シタル所ニ依レバ米國カ日獨兩國ヲ現實ノ敵トシテ戰フ場合ノ  
 爲メ太平洋方面ニテ自強ノ策ヲ取リ數年後完成スヘキ大海軍及大空軍ヲ以  
 テ對日決戰ヲ試ムヘキ意圖ナルカ如シ又對日態度ニ付テハ朝野ヲ擧ケテ獨  
 伊ノ味方ナリトシテ不人氣ナルコト之等兩國ニ次ク有様ナルカ本使親書捧  
 呈ノ際大統領ハ雜談ニ入りタル際自分ハ日本ノ友人ナリト稱セラレタルコ  
 トアリ大統領並小數側近者カ日本ハ獨逸、伊國ト國柄ヲ異ニシ必スシモ獨  
 伊ノ如ク侵略的ナラサルヲ認識シタルコト及日米接近ハ自國ノ爲ニモ有利  
 (絶對必要事ニアラサルコトニ注意セラレタシ)ナルコト等ヲ考慮スルニ  
 至リシ有様ナリ

三、敘上ノ如キ情勢ナルヲ以テ今ニ於テ日米間ニ何等カノ手ヲ打タサルトキハ大統領等ノ對日接近機運モ冷却シ完全ナル經濟的斷交ノ實現ヲ見ルハク帝國トシテハ生存ノ爲南万武力進出ヲ餘儀ナクセラレ茲ニ全面戰爭ニ發展スル危險性大ナルモノト考ヘラル而シテ日米國交ヲ恢復スルモノトシテ其ノ時期ヲ考察スルニ

(イ) 歐洲戰歸趨ノ明カナラサル現在 (ロ) 獨逸力決定的勝利ヲ得タル場合 (ハ) 大戰持久化シ双方共戰ニ捲ミタル場合ノ三ヲ擧ケ得ヘク (イ) ハ兩國平等ノ立場ニ於テ妥協スルコトヲ基調トスルモノニシテ大歐方經緯側ノ勝利ヲ以テ終ル場合不利ヲ來ス惧ナシトセサルニ願ミ帝國トシテハ支那事變ヲ歐洲大戰ニ元チテ解決シ自由ナル立場ニテ戰後ニ對處シ得ルノミナラス有利ナル條件ニテ國力ノ充實ヲ實現シ得ヘク從ツテ大戰後ニ於ケ對日英協力ヲ大ナラシムル利アリ (ロ) ハ全般的情勢トシテハ望マシキコトナルモ事帝國ニ關スル限り支那事變ノ重荷ヲ背負ヒタル儘對處セサルヲ得サルノミナラス國力ノ充實モ想フ儘ニナラス且帝國ノ要求モ第三國ニ依リテ抑制セララル危險性アリ而モ果シテ獨逸ノ決定的勝利カ何時來ルヤハ何人モ保證シ得サル所ナリ (ハ) ハ(其ノ) 可能甚ダ少キモ一夫レ迄ニ

米國ノ大戦参加ノ公算多ク從ツテ永久ニ日米國交調整ノ機會ハ失ハルハシ  
右ノ各險等ヲ考慮ノ後日米國交恢復ノ時期ハ米モ成ルハク速カニ實現スル  
ヲ有利トストノ見解ヲ抱クニ至リシ次第ナリ

次ニ日米國交恢復案ノ内容ニ付テハ三國條約ノ目的達成及日米戰爭回避ヲ主  
題トシテ取扱ハントシタル處獨ニ對スル我國、英ニ對スル米ノ關係ヲ明カニ  
スルコト支那事變南方問題等ヲ一體トシテ相互關聯的ニ取扱ハサルヲ得サル  
ニ至リシ次第ニシテ今日ノ如キ日米間ノ空氣ニ於テ通商協定ノ如キ局部的問  
題ヲ茲ニ與上ケテ處理スルコトハ實現性極メテ薄クサリトテ哲學的乃至ハ思  
想的背景ニ立脚スル根本的解決即我國側トシテ東亞新秩序問題又ハ世界新秩  
序ニ立脚スル大戦和平案ノ如キヲ提案スルモ成功ノ望少ク却テ日本ノ眞意ヲ  
窺ハルルニ過キサルノミナラス現ニ新秩序ノ承認大戦和平調停等ノ如キハ了  
解案作成ニ至ル間表面工作ニ於テ幾度カ強硬ニ主張セシメタルモ到底之ヲ承  
諾セサルコトヲ確メ待タル次第ナリ（米國トシテモ侵略ニ依ル領土變更不承  
認戰爭行爲否認原則ヲ振リマハスコト必定ニシテ日米國交恢復ハ議論倒レ  
トナル惧レ大ナリ）現ニ了解案討議ニ當リ米國側トシテハ

- 一、兩國及他ノ國家ノ領土ノ保全及主權ノ尊重
- 二、他ノ國家ノ國內事項不干渉ノ原則ノ支持
- 三、商業上ノ機會均等ヲ含ム平等原則ノ支持
- 四、平和的手段ニ依リ現状ノ變更セラルル場合ヲ除キ太平洋ニ於ケル現状ノ

不攪亂

ヲ執拗ニ主張シタルヲ相互ニ原則論ニ深入リセサルコトヲ提案シテ之ヲ押ハ  
ル事候アリ（即チ今日ノ場合兩國相互ニ其ノ抱懷スル世界觀等ノ原則的論  
議ハ必要ノ最小限ニ止メテ現實ノ日米問題ニ善處スルコトヲ第一主義トスヘ  
ク又多年積リ積リシ日米間ノ深刻且複雑ナル關係ヲ一舉ニ清算スルコトハ至  
難ナルモ若シ一度了解ノ方向ニ向ヘハ漸次ワタカマリモ解消シ次テ親善感情  
モ生シ來ルヘキヲ以テ斯ノ如キ形勢ヲ一日モ速カニ實現スレハ米國ノ對大戦  
態度ヲ牽制シ乃至ハ變更セラルルコトモ漸次可能トナルヘシ從ツテ此ノ際ハ  
先ツ實效ヲ擧クルコトニ重點ヲ置クヲ有利トスヘシトノ信念ニ立脚シテ實質  
ヲ取りタル次第ニシテ右重複ヲモ顧ミス茲ニ報告ス